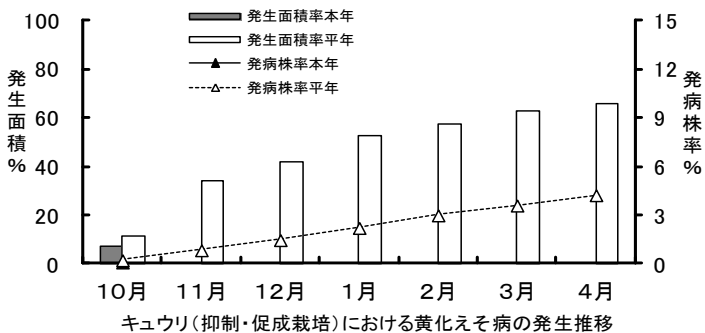


平成26年11月4日

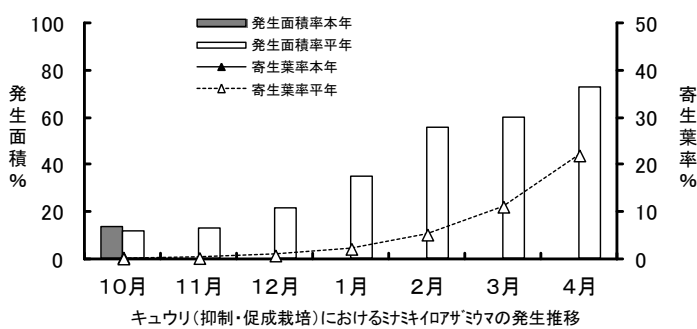
高知県病害虫発生予察10月月報及び予報第8号(11月)  
野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: やや少

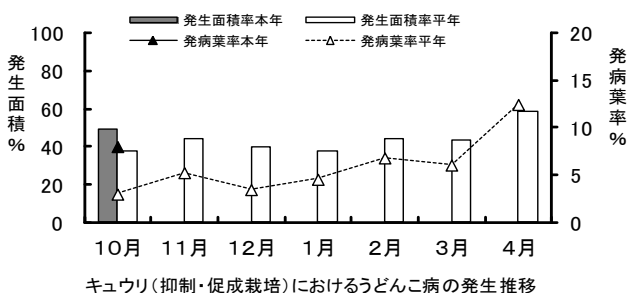


ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並

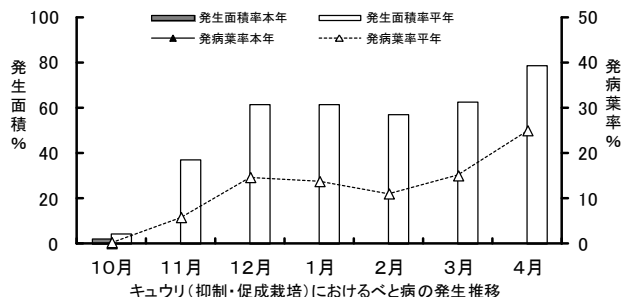


黄化えそ病の発生は高知県全域で発生が見られましたが、平年に比べやや少発生です。媒介虫のミナミキイロアザミウマは県中央部でやや多発生、中西部と西部では少発生で、全体的には平年並の発生です。発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫の防除も徹底してください。キュウリ生長点部に寄生するミナミキイロアザミウマは発見が困難で、薬剤もかかりにくく、密度が高くなると防除が難しくなることから、初期防除を心がけてください。

うどんこ病 発生量: 平年並

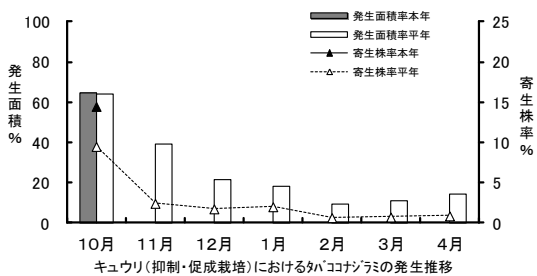


べと病 発生量: 少

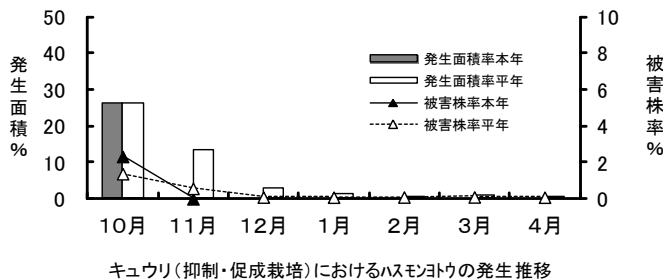


うどんこ病は県中央部でやや多発生、中西部では少、西部で平年並の発生となっています。べと病は中央部でやや少、中西部で少、西部では平年並の発生となっています。うどんこ病、べと病ともに蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

タバコナジラミ 発生量: 平年並



ハスモンヨトウ 発生量: 平年並



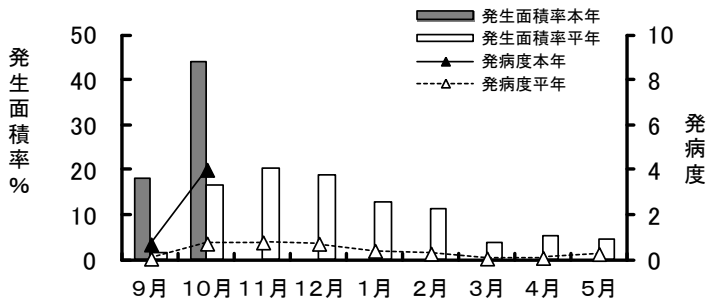
タバコナジラミは県下全域で平年並の発生となっています。ハスモンヨトウは中央部では平年並、中西部では少、西部では多発生と、地域差が大きくなっています。どちらも気温の低下とともに発生量は減少しますが、薬剤散布回数の少ない場合は春先に急激な増加が見られる場合があるので注意してください。

平成26年11月4日

高知県病害虫発生予察10月月報及び予報第8号(11月)  
野菜類ダイジェスト版

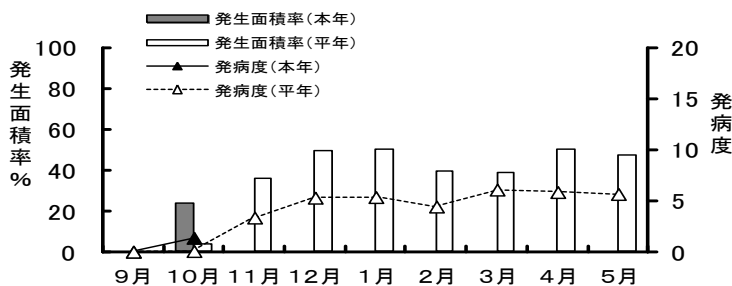
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量:多



ナス(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

黒枯病 発生量:多

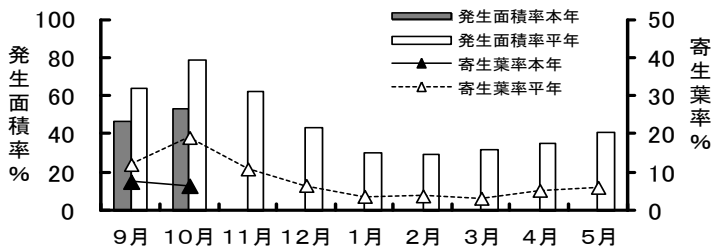


ナス(促成栽培)における黒枯病の発生推移

10月下旬の調査では、県全域で多発生でした。下葉に散見される程度の発生ですが、今後も病勢が伸展することが考えられます。温湿度管理、草勢管理を適正に行い、発病を認めた場合には初期から薬剤防除を行いましょう。

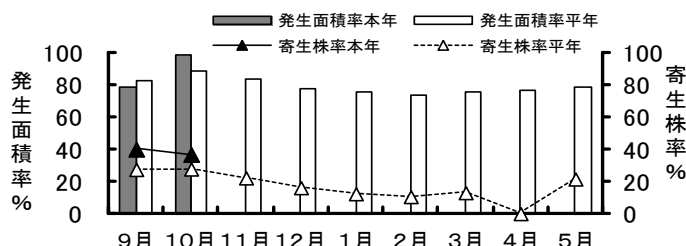
10月下旬調査では県東部、中央部ともに多発生、西部では平均並の発生でした。気象予報では降水量がやや多めで推移する予想で、発病の増加が考えられます。定期的予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しまししょう。

ミナミキイロアザミウマ 発生量:やや少



ナス(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

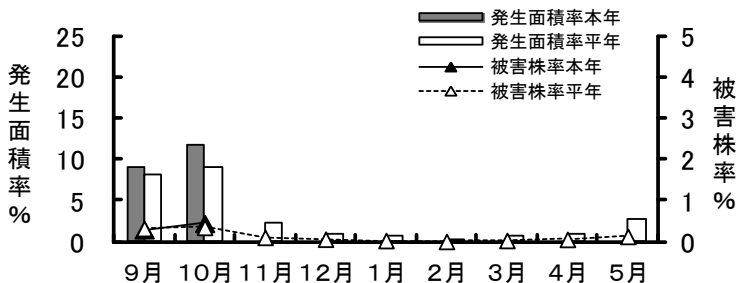
タバココナジラミ 発生量:平均並



ナス(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

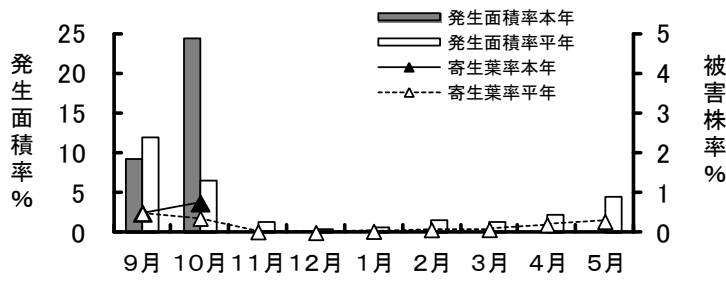
ミナミキイロアザミウマは県中央部で多発生、中央部、西部ではやや少なめの発生です。タバココナジラミは、ほとんどの調査ほ場で発生が見られており、県東部、中央部ともに多発生です。特に天敵導入ハウスでは、天敵の定着が進み、両種の密度はさらに低下してくると思いますが、現在発生が多めのは場は急激な密度増加も考えられるので、今後の発生動向に注意し、密度が高いほ場では、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除が必要になると思われます。

ホコリダニ類 発生量:平均並



ナス(促成栽培)におけるホコリダニ類の発生推移

ハダニ類 発生量:多



ナス(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

巡回調査では、県中央部で多発生、県東部と西部では平均並でした。薬剤散布により発生は減少傾向にありますが、既発ほ場ではよく発生状況を観察して、発生初期に防除するように心がけてください。

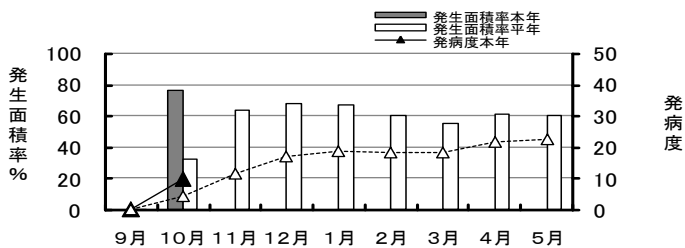
10月下旬時の調査では、県東部及び中央部で多発生、西部では少発生となっています。今後も発生状況をよく観察し、初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

平成26年11月4日

高知県病害虫発生予察10月月報及び予報第8号(11月)  
野菜類ダイジェスト版

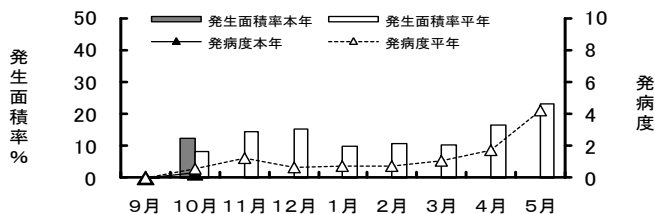
● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

うどんこ病 発生量:多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

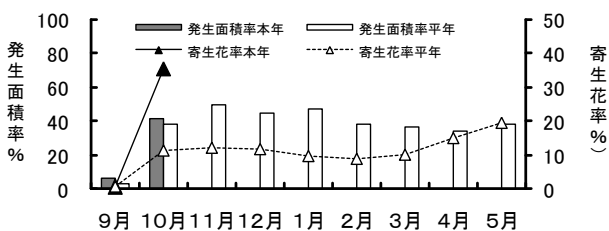
黒枯病 発生量:やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

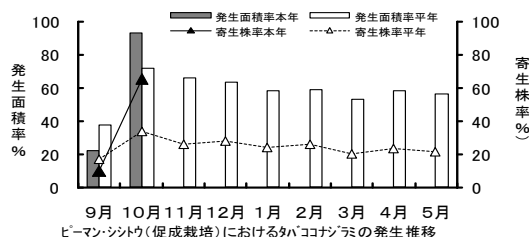
うどんこ病は県東部でやや多、中央部と中西部で多発となっています。また、黒枯病は東部と中西部では少発生ですが、中央部で多発傾向となっています。両病害とも蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないように丁寧に散布してください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量:平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

タバココナジラミ 発生量:平年並

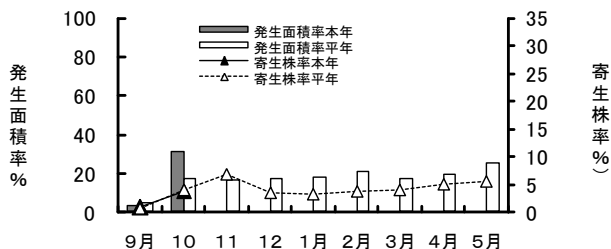


ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

県中西部では多発生ですが、東部と中央部では平年並みからやや少、全般的には平年並の発生となっています。天敵の定着の悪い場合には、初期防除を徹底するとともに、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

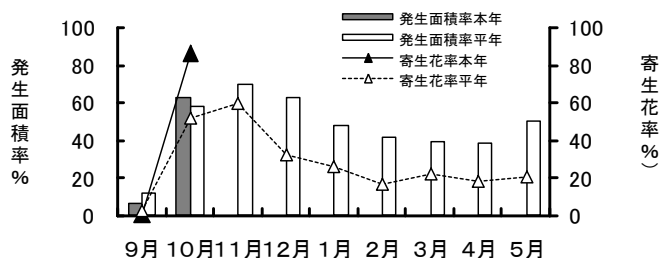
県東部では多発生となっていますが、全般的には平年並の発生となっています。スワルスキーカブリダニの定着状況にもよりますが、成虫のみが見られる場合には、特に問題とはならないと思われます。

アブラムシ類 発生量:多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

ヒラズハナアザミウマ 発生量:平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

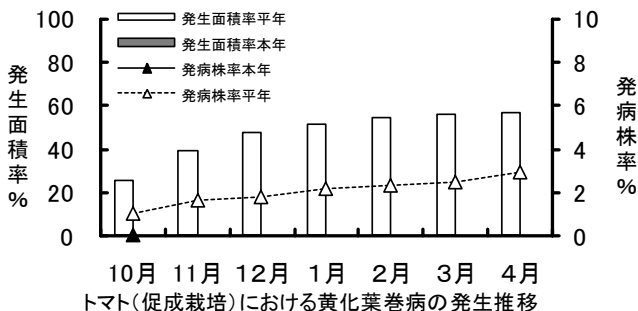
アブラムシ類は県東部と西部では平年並から少発生ですが、中央部で多発傾向となっています。長期間発生が見られるハウスでは、虫媒伝染性のウイルス病の発生に注意してください。ヒラズハナアザミウマは東部と中西部ではやや多発傾向ですが、全般的に平年並の発生です。いずれも密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、天敵の定着までは薬剤の散布は極力控え、散布する場合は影響の少ない農薬を選定しましょう。

平成26年11月4日

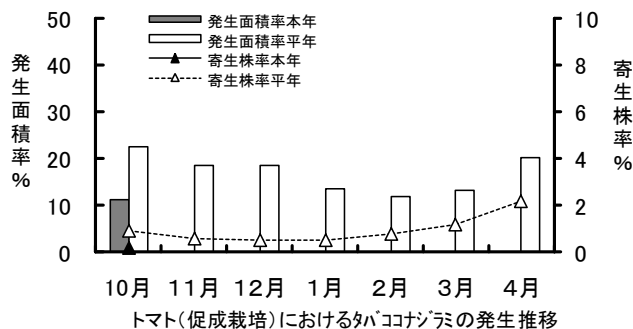
高知県病害虫発生予察10月月報及び予報第8号(11月)  
野菜類ダイジェスト版

● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量:少

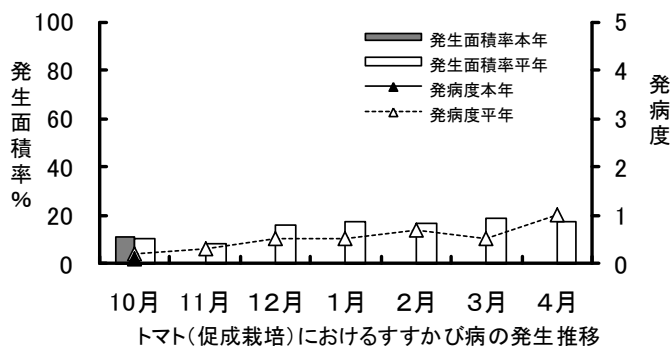


タバコナジラミ 発生量:少

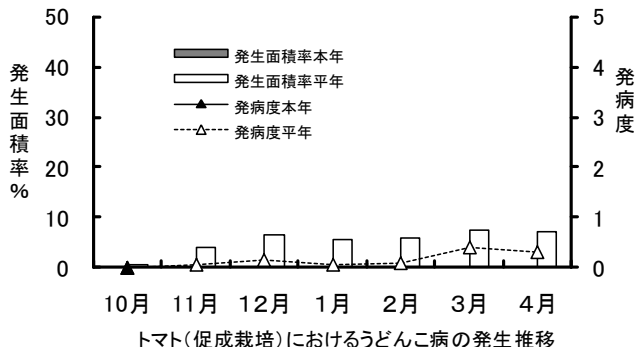


トマト黄化葉巻病の媒介虫であるタバコナジラミの発生は少発生となっており、巡回圃場での黄色粘着板に誘殺された成虫も少なかった。トマト黄化葉巻病の発生もは平均より少なくなっていますが、発病株は感染源になりますので可能な限り除去し、タバコナジラミが発生している場合は防除しましょう。また、併せて粘着資材等による物理的防除も実施しましょう。

すすかび病 発生量:平年並

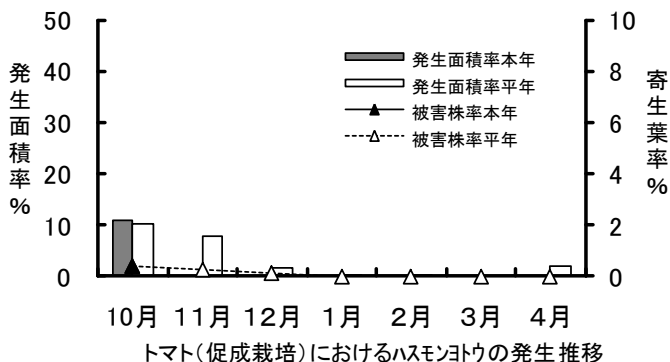


うどんこ病 発生量:少

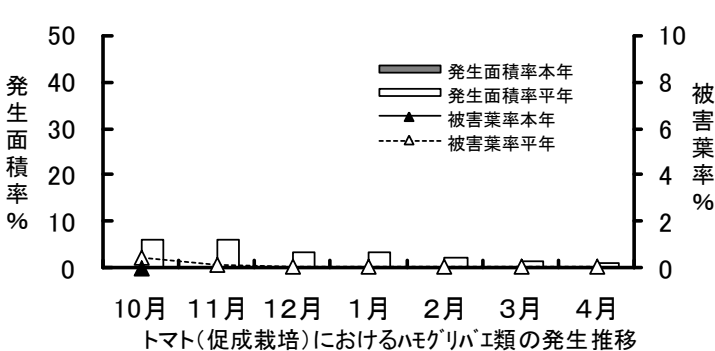


すすかび病が一部のほ場で発生しています。うどんこ病についてはほとんど発生は見られていません。今後の予報では降水量がやや多く、天候によりすすかび病が急に拡大することがあるので注意してください。

ハスモンヨトウ 発生量:平年並



ハモグリバエ類 発生量:少



ハスモンヨトウは平年並の発生が見られています。効果的な薬剤散布が行われない場合には厳寒期もハウス内で世代交代が行われ、春先に増加が見られる場合があるので注意してください。ハモグリバエについてはほとんど発生は見られていません。